

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871700676		
法人名	医療法人社団うしお会		
事業所名	グループホームおのころ		
所在地	兵庫県南あわじ市寺内1140-6		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	2011年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2011年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件にあり、四季を感じながら穏やかに生活して頂いている。当施設の理念、方針であるご本人の思いや気持ちを尊重したサービスを心掛けている。食事はインスタントは避け手作りを基本としている。職員と入居者は仲良く和気藹々生活している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者が常に季節を感じられる環境の中にある。法人経営の病院や小規模多機能ホームが隣接しており、安心の医療体制となっている。周囲の畑からは新鮮な野菜が多く届けられ、地域住民との交流も広がっている。調理師資格のある職員を中心に利用者も一緒に食事を作り、食事中も和気あいの雰囲気である。また、利用者個々に聞き取ったこれまでの人生をもとに職員が人生紙芝居を手作りし、それぞれの誕生日に披露して全員で祝福するなど、利用者の生活を大事にする配慮が感じられる。さらに「心を動かす優しい言葉、柔らかい態度、できていますか？」などの標語を貼り出し、利用者尊重を常に意識するよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に誰もが分かるように見えやすい所に掲示しており入所時にはご家族にも分かり易く説明をしている。 職員は常に理念を念頭におき毎日のミーティングや会議時に取り上げて理解、意識し理念が実現出来るように意識の向上に努めており、日々の生活の中でも地域の方々との挨拶や行事時は案内状やパンフレットを配り、親しまれる施設を目指し実践している。	長年地域医療を展開していた法人が設立した事業所であり、近隣住民との関係は良好である。「地域に親しまれ信頼される施設」という理念を、職員の名札に記入し常に意識できるよう図っている。朝礼では職員が一人ずつその日の目標を発言し、基本理念に添った介護の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	島内一斉清掃日や老人会が主催する清掃日や行事などには出来る限り職員共々参加させて頂き地元の方との触れ合いの中でホームの事を理解していただいている。同じ小学校区内に2つのグループホームがあり合同で行事を行っており地域住民との輪を広げている。	島内一斉清掃日には、地域活動として利用者とともに参加している。事業所行事には住民参加があり、納涼祭には浴衣姿の保育所幼児もお遊戯をしてくれた。小学校運動会には招待を受け参加し、中学生が来訪して演じた人形浄瑠璃では、利用者が人形と握手し笑い声が広がった。周囲の畑で取れた野菜のおすそ分けも多く、住民とふれあう機会が多い。	住民との交流は広がっているが、住民がより気軽に立ち寄れる相談窓口として、認知症ケアの勉強会などを地域集会で開催されてはいかがか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には事業所での行事に参加して頂き施設を交流の場として解放し気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し評価を会議で報告し、話し合いをし地域の方々の意見を真摯に受け止めている。老人会や住民会の方々とも連携を密に情報提供や災害時の避難場所の提供など協力体制を依頼している	2ヶ月に1回開催し、事業内容や利用者の状況などを報告している。メンバーからは地域情報が寄せられ、活発な意見交換となっている。消防署員がメンバーに加わり、行事の際に署員が救急救命や誤えん対応などの研修を行うなど協力関係が広がっている。	農作業中の住民がふらりと気さくに立ち寄れる事業所でありたいという、管理者は熱い思いをもっているが、運営推進会議で検討されてはいかがか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市庁の担当者とは常に連携を密にしており意見や指導を受けており、施設として積極的に改善・調整を図り行っている。	運営推進会議に市職員が出席し、いつでも相談できる良好な関係である。福祉の措置利用者の手続きの際には、阪神地区まで同行してくれるなど、市職員とは日常的に連携を密にしている。		

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設を出るとすぐに用水路や国道があり交通量も多く、安全上の理由からやむを得ず施錠(玄関・裏口)を行っているが、利用者の人権を常に考え、身体拘束に至らないよう、その都度細心の注意をしている	交通量が多い国道が近いため、利用者や家族の了解のもと玄関は施錠している。利用者が閉塞感を抱かぬよう職員は細心の注意を払い、外出の素振りにはその都度開錠している。しかし、1階と2階は自由に行き来でき、ウッドデッキの回廊式ベランダへの出入りは自由である。	時間的に開錠するなど、施錠しない方針を前向きに取り組まれてはいいかがか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはミーティングや勉強会、研修等に参加し学んでいる。ホーム内での虐待については言葉遣い等細心の注意、監視を怠らず、行われぬよう努めている。現在まで虐待又はそれに準ずるような行為も一切行われていない。また、やむを得ず他の入所者に暴力や危害等のおそれがある場合は家族の方と話し合い理解、納得の上一時的に対処させていただいている。	虐待防止の研修に参加した職員が学んだ「標語」を貼り出し、利用者に寄り添う介護になるよう、言葉使いや関わり方などを職員全員でくり返し注意し合っている。職員自身が楽しむことで利用者の笑顔につながると、管理者は職員の体調にも留意している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の関係文書を随時、職員が閲覧できるよう配慮されており、必要に応じて話し合いを行い、また、家族への説明・周知も行っている。	権利擁護に関するパンフレットを職員に示し、家族へも配布しているが、権利擁護の活用までは至っていない。管理者は研修等を通じていきたいと考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書、重要事項説明書を、充分な時間をかけ納得がいかれるまで説明し利用者、ご家族の同意を得ている。また、利用者の重度化に対しても、現状説明や話し合いを儲けて理解・納得を図り、最善のケアが出来るよう行っている。	入所時には契約内容などを分かりやすく説明している。不安感や疑問点には、理解されるまで時間をかけて話し合い、納得の上での契約となるよう図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(1回/年)、家族来園時など、また苦情・意見箱等による意見収集に努め、意見がある場合には、施設全体で協議し対応を図っている。また、来園時には、意見(要望)を言って頂けるよう家族・利用者への配慮も心がけている。	年1回の遠出行事の際に行う家族会には、多数の家族参加があり、意見や希望を気軽に出してもらえよう心がけている。日常の来訪家族からもゆっくり話を聞くようにし、伝えられた内容等は運営に反映させるよう努めている。	家族会では、家族同士で気楽に話し合える時間を作り、同じ思いの共有ができるよう配慮されてはいいかがか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から意見を述べられるよう、ミーティング時やそれ以外にも機会を設けており、その都度、報告・相談を行われている。また、気づきメモを設置しすぐ記入出来るように早い対応、対処出来るよう心掛けている	職員が運営などに関して、気づいたことを記録する「気づきメモ」を設置し、ミーティングで検討して実現につなげるようにしている。夏の布ぞうりや椅子の改造など、職員の積極的な意見を取り入れ実施した。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い職員個々の技能及びがんばり具合について把握し出来るだけ昇給、賞与等に反映出来るように法人役員と話している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修やリーダー研修をはじめ各種団体が主催する勉強会(嚙下、介護等)法人内の勉強会(医療、リハビリ等)にも参加している。参加は自由であり本人の希望に添うようにしている。研修後は報告書等により学んだ知識の共有をしている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所相互間での職員の研修や勉強会等をさせて頂き知識、技術など質の向上に共に努力している。また同業者合同での行事の開催等地域の人も含め交流の機会を作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応の重要性は理解しており、入所前にご本人やご家族とお会いする機会を出来るだけ多く持ちご本人のこれまでの生活歴や希望等急かずゆっくりと知る機会をもって本人の気持ちを中心に受け止めてゆく努力をしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりインテークを重ね家族の思いを出来るだけ受け止め不安や心配事、疑問点など話し合い家族の思いを受け止める事が出来るよう努力している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要かを家族とよく話し合い、今何を必要としているかを、本人の思いや周辺環境も考慮し、必要であれば関係機関との調整を含め、適切なサービスが出来るよう心掛けている。		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生でも先輩であり、教えて頂くことも多く尊敬の気持ちをもって接している。介護においてはその人の思いを尊重し過剰介護にならないよう自分で出来ることはして頂き出来ないとき、求められる時に適切な介護が出来るよう心掛けている。全員が家族であるという気持ちを大切にしその人の思い等を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人・施設職員との三者間が円滑な関係であるよう心がけ、家族の思い、本人の思いを尊重し、家族の絆を大切に不安や心配事をうけとめながらよい関係を築くよう努力している		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人、友人等の訪問は自由であり、外出外泊においても自由である。一応面会時間は決まってはいるが、その都度順応するよう心がけている。又、馴染みの場には外出出来るよう支援している。	利用者の自宅近くをドライブし、昔話に耳を傾けることもあり、子ども時代に遊んだ懐かしい港などにも一緒に出かけている。馴染みの店にはこまめに出かけ、旧交を温めてもらっている。知人などの訪問は大いに歓迎し、大切な人間関係の継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースがいくつかあり、入居者同士が自由に話をしたり、歌をうたったり作品を一緒に作ったりしながら、孤独にならないよう共に支え合え、よりよい関係作りが出来るように手助けしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方にも気安く訪問して頂いたり、行事にも参加して頂いたりご家族とも関わりを持ち、いい関係を大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人のこれまでの人生感、価値感、生き方等を理解把握し、その人の思いや希望を取り入れている。困難な場合はご家族等の意見も聞き希望に沿うようにしているが他の入居者の気持ちも考慮しながらするよう心がけている。	生活の中でのなにげない独り言を聞き逃さず、見えていなかった利用者の人生に気付くように努めている。ふとしたしぐさで昔の仕事が分かったり、得意なことを発見したりし、職員全員で共有して、その人らしい人生に寄り添う介護となるよう常に心がけている。	
----	------	--	---	---	--

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には本人やご家族からこれまでの生活歴、人生観、暮らし方、環境など詳しく聞き把握している。その後もご本人の生活から情報を集めるようにしている。サービスの利用の経過についてはご家族、本人、担当ケアマネージャーにも情報を提供して頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がその日の一人ひとりの心身状態を把握記録して、職員全員が共有しその人らしい過ごし方が出来るように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時は、本人、家族、職員を含めてカンファレンスを開きかにかにその人らしく最適生活が出来るような介護計画を作成し生活に直接活かせるよう、その人のための介護計画になるように心がけている。	職員個々の利用者に対する観察を持ち寄り、カンファレンスで検討共有し、計画原案を作成している。利用者や家族とも相談し、医師の意見を参考にした上で介護計画を完成している。利用者の現状をよりきめ細かく把握できるよう、担当者制を取り入れることを計画している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護記録には、日々のバイタル、ケアの内容、その日の生活状況また、改善すべき点等が記載されており個人の状態が把握出来る。その中から祖に人らしい生活が送れているか見直し、適切な支援が提供出来るように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む	施設サービスの枠にとらわれずに、家族・本人への想い希望を取り入れニーズに対応できるよう柔軟に多方面に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各種団体(老人会、消防署、警察、民生委員、幼稚園、小中学校等)と連携を取り多方面での協力体制を得ており地区運動会や文化祭、清掃作業などに参加したり、慰問などを受けている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、ご家族の希望を尊重しており入所時に合意している。受診時は必要に応じてご家族と共に職員も受診に付き添い医師に症状の説明等をしている。	これまでのかかりつけ医を優先することを基本としているが、本人、家族の希望、納得のうえ協力医を主治医としている人も多い。職員も必要に応じて受診に付き添い、状況等の説明、症状の確認を行っている。	

31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携が出来ており週／2回訪問してくれ、入居者の健康管理や医療相談、急変時等の病院との連携が出来ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、環境の変化に順応し難いため職員が面会や付き添いをして安心できるよう協力、主治医とも連携をとり出来るだけ早く回復、退院出来るよう支援している。	やむをえず入院した際には、職員が訪問し一緒に寄り添いながら、不安を取り除くよう努めている。一方早期退院へも、医療関係者との連携を図り、事業所へ受け入れ準備の体制強化に取り組んでいる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては利用者、ご家族、医師とよく話し合いよりよい方向を検討し介護で支援が出来る重度化に対しては出来る限り対応していく。常に医療を必要とする重度化に対しては現在は常勤看護師や医療的な設備も整っていない為検討中である	協力医療機関のバックアップもあり、可能な限り本人、家族の要望には応えていく姿勢である。医療関係者との連携は密であり、安心できる環境整備に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時に消防署救急隊員による講習を依頼し実演と講習会(心肺蘇生法、AEDの使用方法、嘔下、窒息時の対処法等)を行っている。また、淡路公域消防事務組合主催の応急手当普及員講習会にも参加し個々の実践力を身に付けている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防、避難訓練を行い、内1度は、消防署職員の指導を受けている。また、地域推進会議にて地域との協力体制も依頼している。	年2回、定期的に訓練を実施している(夜間想定含む)。消防署職員からの丁寧な指導もあり、実践的な周知にもなっている。地域への協力体制も確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、その一人ひとりをよく理解し不快感を感じさせないようにその人にあった対応を心掛けている。	職員は利用者の喜怒哀楽の表情、これまでの利用者との関係性から、その人なりの把握に努め、見守る支援を重視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望や意思の決定が言えるように、また利用者自身が決定出来るよう環境、雰囲気作りや、わかりやすい言葉で対応する。また、本人の性格や想いを理解し自己決定ができるよう対応している		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の今までの生活のペース、習慣を尊重し職員の都合を優先せず個々の気分や、希望、状況等に応じ出来るだけ添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに応じた服装、お化粧、時にはマニキュアなど本人の希望に応じる様にしている。 理美容業者の方が施設に訪問、パーマや毛染めなど本人の思い通りの髪型やおしゃれを楽しまれている。また、行きつけのところに行かれるかたもおられその際は家族の方、職員が付き添っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューでは、個人の嗜好を聞き、献立し、食材も季節感を取入れ提供している。メニューによっては、一緒に料理をしたり片付けを行っている。 誕生会等の行事では、本人の好物を提供し皆さんと共に食事会を開いている。	職員は2人ずつペアを組んで、週単位でメニューを作成し、持ち回りで調理を担当している。菜園で収穫した旬の野菜や、手作りの常備菜をふんだんに取り入れ、利用者、職員が分担、作業しながら一緒に楽しんでいる。食事中も会話が弾み、和気あいあいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量をチェックしており体調不良時などは状況に応じて食事の形態、量、食材、水分等に細やかな配慮を心掛けている。入居者がいつでも自由に飲めるようお茶、水、ジュース等を常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後就寝前には必ず口腔ケアを促し、出来ているか確認している。自己にて出来ない場合は職員が介助し行っている。義歯は職員が毎日預かり洗浄、消毒をしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方はトイレ誘導や一部介助が必要である。パットを利用し、尿意のある人にはその都度付き添い介助を行っている。失禁時には不快感、プライドを傷つけない様さりげない気配りをし皮膚の清潔に心掛けている。夜間排泄介助では、良眠を妨げないように配慮している。自己にて排泄できる方にもそっとさりげなく見守り失敗時すくに対応出来るよう心掛けている	トイレでの排泄を基本としており、利用者の状況により、さりげない声かけや誘導を心がけている。排便チェックは職員で周知し、水分量の調節、食事内容にも配慮している。夜間は、個々の状況に応じ、十分な睡眠を確保することを重視している。	

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し毎日、確認記録し各自の排便パターンを把握、便秘にならないよう水分補給、食材の工夫、適度な運動等を促し快便になるよう努めている。また解消されない場合は医師と相談し薬等の指示を受けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時、時間は1F,2F交互にと決まっているが、希望に応じて毎日入浴する事も可能である。一人で入浴したい人には職員は外で見守り必要に応じて介助している。	ユニットごとに入浴時間は概ね決まっているが、利用者の希望には柔軟に応じている。職員の声かけのタイミングにも考慮しながら、出来るだけ入浴を楽しみとしてもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や病的なものに関しては医師と相談し対応を決めている。眠れないときは無理強いはせず職員と一緒にお茶を飲んだり話をしたり気分を和らげ自ら眠れるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理簿を作成し、全職員が把握し、必ず服用確認をしている。服用後の状態観察も怠らず安全の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴に伴い家事、園芸、洋裁、計算問題、クイズ、絵画等、個々にあった得意なこと、好きなことをして頂いている。また、全体でのレクリエーションなどにより各個人の役割や仲間意識の向上を図っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の業務上にて、調整を図り出来るだけ個人要望に対応している。買い物や散歩ドライブなど希望を聞き出かしている。普段行けないような場所でもご家族の方などの協力を得て出来る限り本人の希望を叶えられるよう支援している。	利用者個々の希望を優先した買物やドライブの支援に努めている。特別の外出などは家族の理解、協力を得る事で、支援につなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時や受診時には出来るだけご自身で支払ったりして頂き釣り銭や金銭価値などを自覚して頂くようにしている。		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやりとりには全く制限はなく家族や大切な人との繋がりが途絶えないように書けない人には職員が代筆したり手紙を読んであげたり積極的に支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が植えてあり、家庭菜園にはその季節の野菜を作っている。ホーム内は落ち着いた色調であり南向きで窓も大きく、日当たりもよく明るい。余り施設独特の幼稚な飾り付けはしていない。共有スペースには冬場はホットカーベットを敷きマッサージ機もありくつろがれている。	南向きの大きな窓からは、田園風景が広がり四季の移ろいが感じられる。ソファ、畳コーナー、広いカウンターを備えたキッチンスペースなどゆとりあるリビングとなっている。特別な展示、飾りつけはないが、居心地の良いサロンのような雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり畳のスペースもありコーヒ等が飲めるカウンターがある。ウッドデッキのベランダは出入りも自由でありベンチも置かれている。利用者はそれぞれ思い思いの場所でくつろがれている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、キャビネットは備え付けであるが木製の暖かみのある物を設置している。個人差はあるが馴染みの家具や家族の写真、趣味の物、御仏壇など今までご本人が使用していた物をもってきてもらい今までと変わらない生活を送って頂ける様にしている。	本人、家族にはできるだけこれまで使用していたものを持ってきてもらうよう、お願いしている。継続した環境を少しでも残していくことを大事にしており、職員が手作りで工夫することもある。ウッドデッキを備えたベランダからは、四季おりおりの景色が見渡せる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーであり、階段、トイレ、浴室などには手摺が設置されている。玄関もスロープが併設されており車椅子にも対応している。歩行器、ポータブルトイレ等その人の状況に応じていつでも利用できる。 目の高さに「トイレ」等の表示をしたり夜間にはトイレの明かりを点けドアを常時開け間違わないようにしている。各自居室には本人が分かり易いように絵を飾ったりドアノブに印を付けたりしている。		